

第107回 北海道整形外科外傷研究会

平成15年 2月22日 札幌臨床検査センター
出席者 69名

主題：骨癒合に工夫を要した骨折症例について(保存治療も含む)

会長 札幌医科大学 保健医療学部理学療法学科 青木光広

第107回北海道整形外科外傷研究会を開催して

2003年2月の札幌で、恒例の第107回外傷研究会が行われました。開催会場が臨床検査センターであり、多少の場所的な不便さはありませんでしたが、多くの整形外科医に参加していただきました。今回は主題を「骨癒合に工夫を要した骨折症例について」としましたが、4題の一般演題と4題の主題の報告がなされました。

演題はいずれも内容の濃い優れたものであり、いつもながらに味のある活発な討論がおこなわれ、主催者も満足しております。教育研修講演には、済生会山形済生病院整形外科部長 清重佳郎先生をお招きし、「関節近傍骨折治療における髄内補填を行う工夫、行わない工夫」の題名で講演を頂きました。清重先生一流の骨折治療概念とたくさんの貴重な症例を披露され、骨折に対する治療の幅の広さを学びました。

清重先生には、講演内容を本研究会雑誌投稿していただき、発表原稿として講演では触れられませんでした「骨セメントの使用による関節面の補填の話」も加えて頂き、力作となっております。ぜひ会員の皆様にはご一読いただけますようお願い申し上げます。